

持続可能な社会を創る「おおむたっ子」の育成にむけて

児童生徒が郷土への愛着を高め、将来の夢を描くための仕組みづくり

大牟田市教育委員会

1. はじめに

大牟田市は福岡県の最南端に位置し、西は有明海に面し、東は阿蘇へ続く山地となっているなど、自然に恵まれた環境である。このような環境の中、大牟田市では江戸時代中期ほどから石炭が採掘されはじめ、明治時代になると官営による大規模な石炭採掘がはじまり、日本の近代化における製鉄、造船業の重要なエネルギー供給源となった。このことから、平成 27 年 7 月、大牟田市内の三池炭鉱関連施設（三池港、宮

大牟田市全景（写真中央：世界文化遺産『三池港』）



原坑、三池炭鉱専用鉄道敷跡）が『明治日本の産業革命遺産』として、世界文化遺産に登録された。現在では、三池炭鉱の閉山に伴う人口減少や高齢化等の課題を解決するため、持続可能なまちづくりを目指し、まちをあげて SDGs/ESD に取り組んでいる。その中で、公立学校においては、世界文化遺産である三池炭鉱関連施設をとおして、郷土の歴史や文化を学び、郷土の未来のために自分なりに考え、行動する児童生徒の育成を目指し、世界遺産学習を行っている。

2. 教育目標

SDGs/ESD における世界遺産学習を通して、持続可能な社会の創り手として、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を育成するとともに、社会の中での自分の役割を考え、社会的自立に向けて取り組む態度を育成する。

3. 教育委員会・学校での取組

(1) 教育委員会の取組

ア 「子ども大牟田検定」の実施

児童生徒の郷土への関心や理解を深めるために、平成 23 年より、年に 2 回「子ども大牟田検定」を実施している。児童生徒に配付する『子ども大牟田検定ガイドブック』を基に作成された「入門編」「基礎編」「上級編」の三つの難易度の問題の中から、児童生徒が希望する難易度を選択して受検している。

児童生徒はこの検定に楽しんで取り組み、出題された世界文化遺産に関する問題に取り組むことで、郷土の歴史や価値についての理解を深め



るとともに、この検定をきっかけとして、更に主体的に郷土の歴史について調べる児童生徒も現れている。さらに、令和5年度より、資源保護等の観点から、検定問題をタブレット端末に送信し、児童生徒がオンライン上で解答するシステムとしている。

イ 「ユネスコスクール・SDGs/ESD 交流会」の開催

大牟田市内の学校関係者、市役所関係者、企業・団体、学生などが、それぞれの立場の取組に関する情報共有や、大牟田市の将来を見据えた協働の在り方について議論する「ユネスコスクール・SDGs/ESD 交流会」を開催している。

「世界遺産」「環境」「防災・減災」などのテーマごとにグループを設定し、学校関係者や市役所関係者、企業・団体等が現在の取組について情報交換したり、情報交換を基に、今後協働できることについて議論したりすることができるようにしている。

また、学校と市内企業・団体、行政関係者との関わりが促進されることを目的として、本年度は新たに、市内企業・団体等が製品や取組、理念などについて紹介するブースセッションの時間を設定した。



市内企業等による取組紹介

(2) 学校の取組

○ 大牟田市立駛馬小学校による「子どもボランティアガイド」の実施

駛馬小学校では、三池炭鉱関連施設が世界文化遺産に登録される以前より、「子どもボランティアガイド」に取り組んでいる。総合的な学習の時間を中心に、宮原坑や三池港、三池炭鉱専用鉄道敷跡について調べたり、明治時代における日本の近代化に果たした役割について考え、ガイドパネルを作成したりする学習の成果を、児童が実際に観光客等にガイドすることで発揮している。

本年度も、駛馬小学校と同様に、県内で世界遺産をガイドする活動に取り組んでいる小学校の児童と交流したり、市役所関係者と協働しながら、宮原坑で開催されたイベントに協力したりした。この学習をとおして、児童は世界遺産の価値について理解を深めるだけでなく、百年を見据えたまちづくりの視点から、今後のまちづくりに参画しようとする意欲を高めている。



ガイドを行う駛馬小学校の児童

4. おわりに

子ども大牟田検定の開始当初に検定を受検していた児童生徒は、現在、社会人となっている。このように、郷土への愛着を深めるために10年以上継続してきた取組は、着実に成果となって表れている。まさに、「継続は力なり」の言葉が示すところであり、継続できることを着実に積み重ねてきた成果であると考えている。

来年度は、本市石炭産業関連施設の世界文化遺産登録10周年を迎える。今後も、次の10年を見据え、児童生徒の育成のため、継続できることに着実に取り組んでいきたい。